

再生水を利用した沖縄農業の新たな可能性の検討

由藤 聖利香

キーワード: 沖縄農業, 下水再生水, GAP 認証, アンケート, 購買意欲の推定, 潜在クラス分析

1. 研究の背景と目的

沖縄農業は温暖な気候やアジア市場への立地という点で大きな強みを持っているが、深刻な農業用水不足のために、下水処理水をさらに浄化して農業に利用する再生水事業が検討されている。しかしながら、再生水の農業利用により沖縄県産農産物に対する風評被害が生じるのではないかと懸念もあり、事業推進の足かせとなっている。しかし、同時に再生水は、通常の農業用水ではできない水質管理が行われるため、農業に関する認証規格である GAP の認証基準を満たす「管理された水」という側面を持つ。このことから、再生水を単に農業用水不足のための新たな水源というだけでなく、沖縄県農業で GAP 認証を普及させる足掛かりとして積極的に利用できないかという意見も出されるようになった。折しも、国際化が予想される農産物市場において、日本では GAP への対応が緊急課題として注目されている。そこで本稿では、再生水の農業利用計画の課題となっている消費者の風評被害の懸念と、GAP 認証の普及推進の課題をどう乗り越えるかを検討することを研究の目的とした。

2. 研究の方法

(1) 再生水利用作物の実証販売調査と沖縄県内・県外で行ったアンケート調査：再生水を利用した沖縄県産農産物に対する消費者の反応を明らかにし、今後再生水利用農産物を市場で販売する際に留意すべき点について示す為に、沖縄県内で再生水利用農産物の実証販売を実施し、その場でアンケート調査を行った。加えて、販売以外の場合でも再生水利用農産物に対する消費者の購買行動を把握するためのアンケートを作成し、沖縄県内と県外において実施した。これらの結果を定量的に分析して、現状の沖縄県産農産物を全て再生水利用に代替した場合の沖縄県産農産物の市場シェアの推定を行った。

(2) GAP の動向と GLOBAL G.A.P 先進地スペインの事例研究：沖縄県における GAP 認証普及を図る上で必要なことを明らかにする為に、本研究ではまず GAP の基本的な考え方や GAP を巡る国内外の動向、並びに GAP 認証推進の課題について一般的情報を整理する。その上で、GLOBAL G.A.P. 認証による差別化で、農業を大きく発展させているスペイン南部アルメリア地方を先進事例とした。アルメリア地方における GAP 認証普及の背景を探るために、現地で農業関係者らにインタビュー調査した結果を考察した。

3. 結果と考察

(1) 実証販売では、販売の場に置けるパネル程度の量で再生水の意義について説明するだけでも、再生水利用農産物に対して肯定的な印象を持つ消費者が多数派であった。沖縄県内と県外で実施したアンケート結果からも、パネルによる再生水の情報提供は再生水の取り組みの必要性に対する理解や、再生水利用農産物の商品価値向上に繋がることが示された。また同時に、地元産志向と工学的技術に対して受容的かどうか、再生水利用農産物の評価に大きく関わることも示された。さらに、市場シェアの推定から、現状の沖縄県産農産物を全て再生水利用に代替しても、売れ行きが極端に落ちることは考えにくいことが示唆された。これより、再生水の農業利用は、計画で懸念されている程の風評被害には繋がりにくいことが予想された。

(2) アルメリア地方の事例では、農協連合に所属する農業技術指導員が生産者に近い形でその生産活動をサポートし、GAP の概念や意義、市場情報が生産者に伝わりやすい体制が整っていた。また、認証取得にかかる費用は農協連合が負担しており、生産者個人に直接負担がかからない点も、認証普及を後押ししたと考えられる。従って、沖縄県においても生産者個々が認証取得を目指すのではなく、産地として GAP に取り組み、生産者同士が繋がり協力しやすい体制を整えることが認証普及に必要な点と考えられる。